

基礎分野

科目 心理学	担当講師 教 諭	単位数 時間数	1 単位 32 時間	対象学年 2 年次
目 標	人間の心や行動を学ぶことにより，自己や患者の心理的側面のより深い理解を促し，医療従事者としてのよりよい看護の実践につなげていく。			
テキスト・参考書など	基礎科目 心理学 メヂカルフレンド社 プリント資料			
回 数	学 習 内 容	学 習 の ね ら い		備 考
1～32	第1章 看護における人間理解 第2章 認知からの人間理解 第3章 行動からの人間理解 第4章 発達からの人間理解 第5章 パーソナリティからの人間理解 第6章 人間関係からの人間理解 第7章 心理臨床からの人間関係 第8章 看護に活かす心理学	<ul style="list-style-type: none"> 心理学全般に関する基本的な理論や基礎的な知識を理解し，人間のパーソナリティや行動について考察する。 心理学の基礎的な知識をベースに，医療現場での実際のケースを取り上げながら，医療に関わる人間同士のコミュニケーションを円滑にし，より良い医療につなげていく。 看護師国家試験における心理学に関連する問題の演習を行うことで，より確実に知識を定着させる。 		<ul style="list-style-type: none"> 中間試験 終講試験
評価の観点と趣旨				評価の方法
知識・技能	心理学の諸理論や基本概念を正確に理解することにより，より深い人間理解のための学習につなげていく。			<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 問題演習 中間，終講試験 発問時の返答及び態度 授業態度
思考・判断・表現	心理学の諸理論や基本概念を基に，心理学の諸理論やカウンセリングの手法等を身につけ，それに基づいた看護法やコミュニケーション法を実践することができる。			
主体的に学習に取り組む態度	心理学の諸理論を学ぶことにより，多様な人間のあり方について考え，より深い人間理解について考察し，それを将来のより良い看護につなげていこうとしている。			

科目 国文学	担当講師 教諭	単位数 1 単位 時間数 32 時間	対象学年 2 年次
目 標	文学作品を読むことで感性を磨き、感想の交流を通してコミュニケーション能力を高める。 文学的な文章を書き表現することにより、思考力・表現力を高める。		
テキスト・ 参考書など	『原色小倉百人一首』文英堂 レポート・発表用プリント資料等		
回 数	学 習 内 容	学 習 の ね ら い	備 考
1～32	<p>1 和歌の世界を理解するための基礎（選択和歌1） 第1章 作者についての理解 第2章 時代背景についての理解 第3章 修辞法についての理解</p> <p>2 理解から表現への準備 第1章 創作物語の作成 第2章 登場人物の配役・台詞の吟味 第3章 ナレーション、台詞の録音 第4章 絵コンテの作成</p> <p>3 表現の実際 発表会</p> <p>1 和歌の世界を理解するための基礎（選択和歌2） 第1章 作者についての理解 第2章 時代背景についての理解 第3章 修辞法についての理解</p> <p>2 理解から表現への準備 第1章 創作物語の作成 第2章 登場人物の配役・台詞の吟味</p> <p>3 表現の実際 発表会</p>	<p>・グループごとに選択した和歌1の基礎的な知識を理解し、その背景や登場人物の心理について考察する。</p> <p>・歌意に即したグループ独自の物語を創作し物語の世界を音声録音と絵コンテにより表現する。</p> <p>・グループの発表を相互評価することで自分たちの発表を振り返り、次につなげる。</p> <p>・グループごとに選択した和歌2の基礎的な知識を理解し、その背景や登場人物の心理について考察する。</p> <p>・歌意に即したグループ独自の物語を創作し物語の世界を演劇で表現する。</p>	<p>・レポート ・レポート ・レポート</p> <p>・発表会 ・前期評価</p> <p>・レポート ・レポート ・レポート</p> <p>・発表会 ・修了評価</p>
評価の観点と趣旨			評価の方法
知識・技能	・和歌の世界を学ぶことにより、人間のさまざまな側面に興味を持ち、それを将来につなげていこうと意欲的に授業に参加し取り組む態度を身に付けている。		<p>・授業態度 ・レポート ・前期発表 ・後期発表 ・発表時の創意工夫 ・授業態度</p>
思考・判断・表現	・和歌の世界を学ぶことにより、多様な人間のあり方について考え、より深い人間理解やより良い人生についての考察を行っている。		
主体的に学習に取り組む態度	・和歌の世界から人間の機微を学び、日常生活の中で人間構築に役立てようとしている。		

科目 教育学	担当講師 教 諭	単位数 時間数	1 単位 3 2 時間	対象学年 1 年次
目 標	人間の成長にとって重要な「教育」に関して、一般的な歴史や制度などの概論を学習していくとともに、特に看護分野と繋がりがあある事項についてより深く学ぶことで、看護職者としての素養や技能を育成する。			
テキスト・参考書など	教育学 メヂカルフレンド社 基礎看護学① 基礎看護技術 I メヂカルフレンド社			
回 数	学 習 内 容	学 習 の ね ら い		備 考
1～32	序章 教育学を学ぶために 第1章 今を生きる人々と教育問題 第2章 学ぶこと・教えることの理論と方法 第3章 教育とケア—人間の成長・発達と健康 第4章 学校教育とこころの問題—子ども・親・教育の苦悩と教育相談 第5章 特別なニーズをもつ子どもと向き合う 基礎看護技術 I 第3章 教育指導技術	<ul style="list-style-type: none"> 「教育」を学ぶことについて、多角的に考察し、今後の学習につなげていく。 教育の歴史や制度を学び、「教育」をめぐる現代的な課題を認識し、考察していく。 「教育」の方法について学び、特に看護分野への応用について考えていく。 学校教育の考え方や方法について学び、課題や解決方法を考察していく。 特別支援教育について、歴史や現状を学び、看護分野との関わりについて考えていく。 対象に朝瀬田指導計画の作成方法がわかり、実際に作成していく。 		
評価の観点と趣旨				評価の方法
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> 「教育」の歴史や制度について正確に理解し、その課題を適切に把握できたか。 		<ul style="list-style-type: none"> 出席状況 中間、終講試験 授業態度,学習への取り組み 確認テスト 	
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> 「教育」に関するさまざまな事項について、正確な理解に基づき、考えや課題をまとめ、その解決に向けて考察を深めたか。 			
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> 「教育」に関する学習を通して、よりよい看護職への適用やあるべき看護師像の考察を深めたか。 			

科目 物理学	担当講師 教 諭	単位数 1 単位 時間数 32 時間	対象学年 2 年次
目 標	人体や医療に関連する物理現象と日常の身近な物理現象を通して、物理学を捉えやすくわかりやすい学問として、理解を深める。医療従事者にとって必要な、自然を深く見る目や自分自身で問題点を見つけ考えようとする姿勢、物理的に解釈する感性を養うことを目標とする。		
テキスト・参考書など	基礎科目 物理学 メヂカルフレンド社 プリント資料		
回 数	学 習 内 容	学 習 の ね ら い	備 考
1～32	<p>1 重いものを持つにはどうしたらいいか</p> <p>2 看護ボディメカニクスの物理</p> <p>3 身近な圧力</p> <p>4 呼吸器と吸引の物理</p> <p>5 点滴静脈内注射の物理</p> <p>6 循環器の物理</p> <p>7 感覚器の物理</p> <p>生物分野の復習</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・看護動作に見られる力のモーメントの応用を理解する。 ・人体の構造を考慮し、物理学的力学の法則に則った効果的・効率的な看護動作について理解する。 ・人体へかかる圧力について理解を深める。 ・呼吸運動のメカニズムから肺の呼吸の仕組みを理解する。 ・ドレナージや気管吸引について理解する。 ・注射針の先端が皮膚に及ぼす圧力や、褥瘡（床ずれ）を防ぐための物理的思考を理解する。 ・サイフォンの原理から胃洗浄や採血の理解を深める。 ・輸液速度について理解する。 ・心臓における心房と心室の役割を理解する。 ・生物によって感じる大きさや感覚可能な範囲の違いから、感覚器について物理学的な視点で捉え、理解を深める。 ・看護師国家試験に向け、細胞の構造と機能、からだの恒常性の維持、遺伝物質の構造について復習する。 	<p>小テスト</p> <p>レポート</p> <p>中間試験</p> <p>終講試験</p>
評価の観点と趣旨			評価の方法
知識・技能	日常生活や社会との関連を図りながら、物体の運動と様々なエネルギーについての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。		<ul style="list-style-type: none"> ・単元テスト ・試験 ・実験レポート ・グループ討議 ・課題レポート ・学習態度 ・出席状況
思考・判断・表現	物体の運動と様々なエネルギーから問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探求している。		
主体的に学習に取り組む態度	物体の運動と様々なエネルギーに主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探求しようとしている。		

科目 化学	担当講師 教 諭	単位数 1 単位 時間数 3 2 時間	対象学年 1 年次
目 標	化学は、物質の構造・性質および物質相互の反応を原子や分子レベルで解明する学問分野であり、最近の生命科学および医薬やバイオテクノロジーを分子レベルで理解する上で基盤となる重要な分野である。医療従事者に必須な化学の知識と考え方や実験スキルを修得すると共に、今後学ぶ多くの科目の科学的な基盤作りを目標とする。		
テキスト・参考書など	プリント資料		
回 数	学 習 内 容	学 習 の ね ら い	備 考
1～32	第1章 身のまわりの化学 第2章 化学の単位と元素の周期表 第3章 物質の三態 第4章 気体の性質 第5章 液体・溶液の性質 第6章 化学反応 第9章 原子の構造と化学結合 第10章 無機化学 第11章 有機化学 第12章 高分子化学	<ul style="list-style-type: none"> ・単位を理解し、医療従事者として認識を深める。 ・元素の周期表を通して、物質の特徴を知る。 ・気体・液体・固体の状態ならびにそれらの状態変化について理解する。 ・気体に関する性質について、気体の状態方程式を用いて理論的に理解する。 ・気体の圧力、溶液の濃度、溶液の浸透圧を理解する。 ・化学反応の法則や種類を知り、熱・光・酸化還元による化学反応を理解する。 ・原子の構造から電子配置、電子の軌道や入り方について理解する。化学結合を理解することで、原子から分子、イオンになる原理を理解し、物質の構造の理解を深める。 ・各元素の特徴や有機物の特徴を知ることによって医療従事者として、扱う薬品や医療機器への理解を深める。 ・有機化合物が重合することで高分子化合物になり、糖質・タンパク質・脂質・核酸などの生体高分子化合物になる現象を理解する。 	<p>小テスト</p> <p>中間試験</p> <p>実験レポート</p> <p>レポート</p>
評価の観点と趣旨			評価の方法
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。 		<ul style="list-style-type: none"> ・単元テスト ・試験 ・実験レポート ・グループ討議、発表 ・課題レポート ・学習態度 ・出席状況
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・物質とその変化から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探求している。 		
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・物質とその変化に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探求しようとしている。 		

科目 英 語	担当講師 教 諭	単位数 1 単位 時間数 3 2 時間	対象学年 1 年次
目 標	外国人患者とコミュニケーションをとるため、ナースとしての基礎知識を学ぶ。 ア. 患者との基本的な会話 イ. 病棟での会話 ウ. 病院での日常会話 エ. 病院で役立つ文書 オ. 医学用語		
テキスト・ 参考書など	『看護英会話入門 第3版』 植木 武/ドレール・タウン 医学書院 プリント資料		
回 数	学 習 内 容	学 習 の ね ら い	備 考
1 ~ 32	Lesson 1-A, 1-B Greetings, Introductions Lesson 2-A, 2-B Nursing Procedures Lesson 3-A, 3-B Symptoms & Conditions Lesson 4-A, 4-B At Reception Lesson 5-A, 5-B Colds & Flu Stomachache Lesson 6-A Internal Medicine — Chronic Renal Failure Lesson 6-B Internal Medicine — Joint Diseases	○挨拶・自己紹介の表現を学習する ○看護技術や検査に関する語彙を増やす ○症状に関する語彙を増やす ○会計での会話表現を学習する。 ○風邪に関する会話表現を学習する。 ○内科—慢性腎不全に関する会話表現を学習する。 ○内科—関節症に関する会話表現を学習する。	中間試験 終講試験
評価の観点と趣旨			評価の方法
知識・技能	英語のさまざまな語彙, 表現の意味, 働きを理解し, 看護のさまざまな場面において, 状況に適した表現を用いて意思の疎通ができる知識・技能を身に付けている。		・ 中間試験・終講試験 ・ 小テスト ・ ペアワーク ・ 授業態度 ・ 提出物 ・ 出席状況
思考・判断・表現	英語のさまざまな語彙, 表現の意味, 働きを理解し, 看護のさまざまな場面において, 状況に適した表現を用いて意思の疎通ができる知識・技能を身に付けている。		
主体的に学習に取り組む態度	英語のさまざまな語彙, 表現の意味, 働きを理解し, 看護の場面において, 考えや気持ちを積極的に伝え, 相手の発言の概要や要点を理解しようとしている。		

科目 音楽	担当講師 教諭	単位数 1単位 時間数 16時間	対象学年 1年次
目 標	音楽の幅広い活動を通して、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、音楽文化についての理解を深める。		
テキスト・参考書など	なし		
回 数	学 習 内 容	学 習 の ね ら い	備 考
1	【オリエンテーション】 ・年間の学習の流れ、内容及び評価の方法について	・授業の進め方や評価の観点、年間の活動の流れに見通しや関心を持ち、意欲的に取り組もうとする。	学習集団の雰囲気作り 鑑賞活動との関連
2	【校歌】 ・歌詞の理解や曲想の把握 ・発声の基礎	「校歌」への愛好心をもつとともに、歌唱への意欲を高める。 ・発声の基本を知り、実践することができる。	
3	【歌唱による表現】 ・曲想を感じ取り、イメージをもって歌うこと ・様々な表現形態による歌唱の特徴を生かした表現の工夫	・歌詞や楽曲が作曲された背景から曲想を感じ取り、自分なりのイメージをもって歌うことができる。 ・独唱・重唱・合唱における表現を工夫し、その楽しさを味わうことができる。	
4	【わが国及び世界の歌唱について】 ・曲種に応じた発声の違い ・伝統文化の理解	・様々な声による音楽に触れ、その違いを味わいながらそれぞれの文化を理解し、関心を高めることができる。	
5	【器楽による表現】 ・クラシックギターの基礎(種類や名称,歴史) ・クラシックギターの奏法 ・簡単なコードによる演奏 ・独奏による表現の工夫	・クラシックギターに親しみ、基礎的な奏法を身につけるとともに、アルペジオ奏法・ストローク奏法による簡単な演奏ができる。	
6	【創作による表現】 ・いろいろな様式や演奏形態による楽曲の創作	・音階を選んで旋律をつくり、それに副旋律や和音を付けて、イメージをもって作曲をすることができる。	
7	【鑑賞】 ・作曲家の人物像やその時代背景等 ・音楽の構造と美しさ ・音楽と社会や文化とのかかわり ・音楽と他芸術とのかかわり ・オペラの魅力 ・ミュージカルの魅力	・様々な楽器による音楽に触れ、その楽しさを味わいながら、その文化を理解し、関心を高めることができる。 ・音色の特徴や音楽を形づくっている要素、歴史的背景など音楽とかがわる様々なことを通じて、楽曲の魅力を多方面から探り、感じることで、積極的、自発的に鑑賞する態度を養う。 ・オペラやミュージカルに触れ、その楽しさを味わいながら、その文化を理解し、関心を高めることができる。	
評価の観点と趣旨			評価の方法
知識・技能	音楽や音楽文化に関心をもち、歌唱、器楽、創作、鑑賞の学習に主体的に取り組もうとしている。		<ul style="list-style-type: none"> ・ 出席状況 ・ 授業態度 ・ ノート提出 ・ 実技発表 ・ 筆記テスト
思考・判断・表現	個性豊かに音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを深く味わって聴こうとしている。		
主体的に学習に取り組む態度	主体的・共同的に音楽の諸活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。		

科目 音楽学	担当講師 教諭	単位数 1 単位 時間数 16 時間	対象学年 2 年次
目 標	音楽の諸活動を通して、感性を働かせて個性豊かに表現したり主体的に味わって鑑賞したりする力を育成し、生涯にわたり音楽を愛好する心情を高める。		
テキスト・参考書など	なし		
回 数	学 習 内 容	学 習 の ね ら い	備 考
1	【オリエンテーション】 ・年間の学習の流れ、内容及び評価の方法について	・年間の活動の流れに見通しや関心を持ち、意欲的に取り組もうとすることができる。	学習集団の雰囲気作り
2	【歌唱による表現】 ・曲種に応じた発声の工夫 ・視唱力の伸長 ・歌詞及び曲想の把握と表現の工夫 ・合唱における表現の工夫	・視唱力を伸ばしながら、曲想に応じた発声や表現の工夫ができる。 ・合唱における表現を工夫し、その楽しさを味わうことができる。	鑑賞活動との関連
3	【歌舞伎の世界】	・歌舞伎に触れ、諸外国の舞台芸術との違いや魅力を味わい、関心を高めることができる。	鑑賞活動との関連
4	【器楽によるアンサンブル】 ・既習の楽器を使った曲練習とアンサンブル ・鍵盤楽器の演奏方法とその基礎の習得 ・曲の構成及び曲想を生かした楽器、パートの工夫 ・グループに分かれての演奏練習	・クラシックギターや、ピアノ等に親しみ、基礎的な奏法を身につけ、個人やグループでのアンサンブル演奏に取り組むことができる。 ・記譜されている楽語等を理解し、表現を工夫することができる。	
5	【音楽の魅力】 ・音楽と社会や文化とのかかわり ・音楽と他芸術とのかかわり	・音楽とかかわる歴史や文化など様々なことを通じて、楽曲の魅力を多方面から探り、感じることで、積極的、主体的に鑑賞する態度を養う。	
6	【学習のまとめ】 ・2年間の取り組みのまとめ	・これまで学習したことを振り返り、復習するとともに、美しさを感じる感性の大切さに気付き、生活の中で音楽を愛好し続ける態度へとつなげることができる。	
評価の観点と趣旨			評価の方法
知識・技能	・ 音楽や音楽文化に関心をもち、歌唱、器楽、創作、鑑賞の学習に主体的に取り組もうとする。		<ul style="list-style-type: none"> ・ 出席状況 ・ 授業態度 ・ ノート提出 ・ 実技発表 ・ 筆記テスト
思考・判断・表現	・ 個性豊かに音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを深く味わって聴こうとしている。		
主体的に学習に取り組む態度	・ 主体的・共同的に音楽の諸活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。		

科目 保健体育	担当講師 教 諭	単位数 1 単位 時間数 16 時間	対象学年 1 年次
目 標	医療や福祉に関わる職業では、その専門知識や技術を習得し、応用していけることは勿論のこと、心身ともに健康でバイタリティーに富んだ人材が要求されます。 その教育の一環として本教科では、生涯にわたって生活の中に運動やスポーツを組み込んで、自己の健康管理能力を高めていくことに対する理解を深めます。		
テキスト・参考書など	体育実技ノート アクティブスポーツ女子版		
回 数	学 習 内 容	学 習 の ね ら い	備 考
1～16	<ul style="list-style-type: none"> ・ オリエンテーション ・ 体づくり運動 ・ レクリエーション ・ 球技選択（ネット型 ゴール型 ベースボール型） ・ ニュースポーツ ・ 陸上競技 ・ 調べ学習 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自己や仲間の課題に応じた運動を継続するための取り組みを工夫している。 ・ 自己の体力を把握し、個々の特性に応じた運動やスポーツを選択し実践できる。 ・ 健康を高める運動を継続できる方法を理解している。 ・ 体力の高め方、問題解決・健康・安全の確保の仕方について具体的な方法を理解している。 	
評価の観点と趣旨			評価の方法
知識・技能	運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続するため、運動の多様性や体力の必要性について理解し、それらの技能を身につけている。		<ul style="list-style-type: none"> ・活動・技能観察 ・体育実技ノート ・ルールテスト ・スキルテスト
思考・判断・表現	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えようとしている。		<ul style="list-style-type: none"> ・実技実践計画の作成及び内容発表 ・課題レポート
主体的に学習に取り組む態度	運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとしている。健康安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養おうとしている。		<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・体育実技ノート ・課題レポート

科目 保健体育	担当講師 教諭	単位数 1 単位 時間数 16 時間	対象学年 2 年次
目 標	医療や福祉に関わる職業では、その専門知識や技術を習得し、応用していけることは勿論のこと、心身ともに健康でバイタリティーに富んだ人材が要求されます。 その教育の一環として本教科では、生涯にわたって生活の中に運動やスポーツを組み込んで、自己の健康管理能力を高めていくことに対する理解を深めます。		
テキスト・参考書など	体育実技ノート アクティブスポーツ女子版		
回 数	学 習 内 容	学 習 の ね ら い	備 考
1～16	<ul style="list-style-type: none"> ・ オリエンテーション ・ 体づくり運動 ・ レクリエーション ・ 球技選択（ネット型 ゴール型 1年次と別領域） ・ 陸上競技 ・ 調べ学習（運動計画） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自己や仲間の課題に応じた運動を継続するための計画を立て、実践および改善を図ることができる。 ・ 自己の体力を把握し、個々の特性に応じた運動やスポーツを選択し実践できる。 ・ 健康を高める運動を継続できる方法を理解している。 ・ 体力の高め方、問題解決・健康・安全の確保の仕方について、さらに具体的な方法を理解している。 	
評価の観点と趣旨			評価の方法
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・ 運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続するため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身につけている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 活動・技能観察 ・ 体育実技ノート ・ ルールテスト ・ スキルテスト 	
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実技実践計画の作成及び発表 ・ 課題レポート 	
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとしている。健康安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養おうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業態度 ・ 体育実技ノート ・ 課題レポート 	

專門基礎分野

科目 解剖・生理	担当講師 外部講師	単位数 3単位 時間数 58時間	対象学年 1年次
目 標	1 人体の構造と機能について体系的・系統的に理解するようにする。 2 人体の構造と機能に関連する生活行動や健康の基本的な課題を発見し、看護の職業倫理を踏まえて合理的かつ創造的に解決する力を養う。 3 人体の構造と機能について、よりよい看護の実践を目指して自ら学び、人々の健康の保持増進に主体的かつ協働的取り組む態度を養う。		
テキスト・参考書など	人体の構造と機能① 解剖生理学：メヂカルフレンド社 疾病の成り立ちと回復の促進⑤ 疾病と治療2 循環器：メヂカルフレンド社 疾病の成り立ちと回復の促進⑩ 疾病と治療8 運動器：メヂカルフレンド社 からだの地図帳：講談社 プリント資料		
回 数	学 習 内 容	学 習 の ね ら い	備 考
1～21	1 解剖・生理 人体の構成 器官系の構造と機能 生体の恒常性 生体の防御機構	<ul style="list-style-type: none"> 解剖生理学の基礎的な知識を習得し、習得した知識を看護実践に適切に活用できるようにする。 人体の仕組みについて構造及び機能の調節のメカニズムなどの知識を習得する。 生活行動や健康と関連付けて理解し、健康状態をアセスメントする科学的根拠の一つとして活用できるようにする。 	
22～37	2 疾病の診断過程と治療 ①消化器分野 ・手術療法と生体反応の基本 ・麻酔 ・術後合併症 等	<ul style="list-style-type: none"> 人体の発生および構造と機能を系統立てて学び、疾病により生じる構造と機能の変化や看護実習のエビデンスに活用する基礎的知識を習得する。 	
38～44	②外科分野分野	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な病因と進行及び細胞の障害と変化、細胞の障害に対する修復・再生・基本的な病因とその機序についての学習を通して、生体の反応を化学的に理解し、回復を促進する看護を行えるようにする。 	
45～57	③運動器分野	<ul style="list-style-type: none"> 疾病の診断過程、疾病と臨床検査、疾病に対する主な治療法についての学習を通して、各々の意義、方法、注意事項を理解し、看護を行えるようにする。 	
	3 まとめ		
評価の観点と趣旨			評価の方法
<ul style="list-style-type: none"> 解剖生理について体系的・系統的に理解している。 			<ul style="list-style-type: none"> 終講試験（3回） 学習態度 提出物 出席状況
<ul style="list-style-type: none"> 解剖生理と生活行動を関連付け、健康に関わる基本的課題を発見し、看護の職業倫理を踏まえて解決策を見出そうとしている。 			
<ul style="list-style-type: none"> 解剖生理について自ら学び、健康の保持増進を目指す看護への活用に主体的かつ協働的に取り組んでいる。 			

科目 栄養・ 生化学	担当講師 専攻科教諭・外部講師	単位数 1単位 時間数 32時間	対象学年 1年次
目 標	1 栄養・生化学について体系的・系統的に理解し、関連する基礎的な技術を身に付ける。 2 栄養・生化学に関する基礎的な課題を発見し、看護の職業倫理を踏まえて合理的かつ創造的に解決する力を養う。 3 よりよい看護の実践を目指して自ら学び、人々の健康の保持増進に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。		
テキスト・ 参考書など	わかりやすい生化学 HIROKAWA：ヌーヴェルヒロカワ 人体の構造と機能② 栄養生化学 メヂカルフレンド社 プリント資料		
回 数	学 習 内 容	学 習 の ね ら い	備 考
1～12 (外部講師)	1 生化学 身体内部の環境の恒常性 各栄養素の栄養的意義	・栄養・生化学の基礎的知識を習得し、習得した知識を看護実践に適切に活用できるようにする。 ・体内での働きや代謝、食生活と健康との関連、ライフステージや病態に応じた食事に関する基礎的な知識を習得する。 ・多様な人々の望ましい栄養摂取並びに食習慣等を考察できる。	
12～30	2 栄養学 食生活と健康 ライフステージと栄養 病態と栄養		
31～32	3 まとめ		
評価の観点と趣旨			評価の方法
・栄養・生化学について体系的・系統的に理解し、関連する基礎的な技術を身に付けている。			・終講試験（2回） ・グループ学習，発表 ・学習態度 ・提出物 ・出席状況
・栄養・生化学に関する基礎的な課題を発見し、看護の職業倫理を踏まえて合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。			
・よりよい看護の実践を目指して自ら学び、人々の健康の保持増進に主体的かつ協働的に取り組んでいる。			

科目 病理学	担当講師 外部講師	単位数 3単位 時間数 53時間	対象学年 1年次
目 標	1 病理学について体系的・系統的に理解し、関連する基礎的な技術を身に付ける。 2 病理学に関する基礎的な課題を発見し、看護の職業倫理を踏まえて合理的かつ創造的に解決する力を養う。 3 よりよい看護の実践を目指して自ら学び、人々の健康の保持増進に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。		
テキスト・参考書など	人体の構造と機能① 解剖生理学：メヂカルフレンド社 疾病の成り立ちと回復の促進①病理学：メヂカルフレンド社 疾病の成り立ちと回復の促進④疾病と治療1呼吸器：メヂカルフレンド社 疾病の成り立ちと回復の促進⑤疾病と治療2循環器：メヂカルフレンド社 疾病の成り立ちと回復の促進⑦疾病と治療4脳・神経：メヂカルフレンド社 プリント資料		
回 数	学 習 内 容	学 習 の ね ら い	備 考
1～6	1 解剖生理と疾患の基礎 2 疾病の原因と生体の回復 3 基本的な病因	・基本的な病因と進行及び細胞の障害と変化、細胞の障害に対する修復・再生・基本的な病因とその機序についての学習を通して、生体の反応を化学的に理解し、回復を促進する看護を行えるようにする。 ・健康を保持増進する生活環境や生活習慣とともに、疾病の原因や生体の回復に影響を与える精神的や社会的原因についても理解を深める。	※現代医療における諸問題、科学技術の進歩と現代医療の最前線についての内容を含む
7～15	4 疾病の診断過程と治療 ①循環器分野	・人々が自ら疾病を予防し、回復力の維持・向上を図る看護を考察することができるようにする。	
16～37	②脳神経分野		
37～52	③呼吸器分野	・疾病の診断過程、疾病と臨床検査、疾病に対する主な治療法についての学習を通して、各々の意義、方法、注意事項を理解し、看護を行えるようにする。	
	5 まとめ		
評価の観点と趣旨			評価の方法
・病理学について体系的・系統的に理解し、関連する基礎的な技術を身に付けている。			・終講試験（3回） ・学習態度 ・提出物 ・出席状況
・病理学に関する基礎的な課題を発見し、看護の職業倫理を踏まえて合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。			
・病理学よりよい看護の実践を目指して自ら学び、人々の健康の保持増進に主体的かつ協働的に取り組んでいる。			

科目 社会福祉	担当講師 専攻科教諭・外部講師	単位数 2 単位 時間数 32 時間	対象学年 2 年次
目標	1 健康支援と社会保障制度について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につけるようにする。 2 健康支援と社会保障制度に関する基本的な課題を発見し、看護の職業倫理を踏まえて合理的かつ創造的に解決する力を養う。 3 健康支援と社会保障制度について、よりよい看護の実践を目指して自ら学び、社会の変化に対応した生活の向上に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。		
テキスト・参考書など	健康支援と社会福祉制度③ 社会福祉 メヂカルフレンド社 公衆衛生がみえる メディックメディカ 国民衛生動向 一般財団法人 厚生労働統計協会		
回数	学習内容	学習のねらい	備考
1～32	1 社会保障制度の基本 2 保健に関する制度 3 医療に関する制度 4 福祉に関する制度 5 社会福祉援助技術	日本国憲法第 25 条を基とする社会保障制度の変遷, 目的及び制度を構成する社会保険, 社会福祉, 保健医療, 公衆衛生の概要を理解する。 保健に関する制度に関わる法規を取り上げ, 目的及び概要を看護活動と関連付けて考察することができる。 医療に関する制度と関連する法規について取り上げ, 目的及び概要を看護活動と関連付けて考察することができる。 社会保険や社会福祉に関わる法規と公的扶助を関連する法規を取り上げ, 変遷, 目的及び制度の概要, 関係機関等を看護活動と関連付けて考察することができる。 援助の実際を理解することができ, 看護活動に関連付けて考察することができる。	
評価の観点と趣旨			評価の方法
・ 社会福祉について体系的・系統的に理解し, 多面的に捉えて対応する基礎的な知識と技術を身につけることができる。 ・ 社会福祉に関する基礎的な課題を発見し, 看護の職業倫理を踏まえて解決する力を身に付けている。 ・ よりよい看護の実践を目指して自ら学び, 人々の健康の保持増進に主体的かつ協働的に取り組んでいる。			・ 終講試験 ・ グループ討議, 発表 ・ 学習態度 ・ 提出物 ・ 出席状況

科目 関係法規	担当講師 専攻科教諭	単位数 1単位 時間数 16時間	対象学年 2年次
目標	1 健康支援と社会保障制度について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につけるようにする。 2 健康支援と社会保障制度に関する基本的な課題を発見し、看護の職業倫理を踏まえて合理的かつ創造的に解決する力を養う。 3 健康支援と社会保障制度について、よりよい看護の実践を目指して自ら学び、社会の変化に対応した生活の向上に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。		
テキスト・参考書など	健康支援と社会保障制度④ 関係法規 メヂカルフレンド社 公衆衛生がみえる メディックメディカ		
回数	学習内容	学習のねらい	備考
1～16	1 医療に関する法規 2 保健に関する法規 3 福祉に関する法規 4 感染症と対策に関する法規 5 生活環境に関する法規	1 医事法規，薬事法規と関連法規について取り上げ，その目的および概要を看護活動と関連付けて学習できる。 2 地域保健，母子保健，精神保健，学校保健，産業保険等の活動を取り上げ，労働と健康の関連法規について学習できる。 3 社会保険や社会福祉に関わる法規，公的扶助と関連する法規を学習できる。 4 感染症について関連する法規等を学習できる。 5 食品，家庭用品，住環境，廃棄物等が水，大気，気温，土壌に与えている影響について関連する法規を学習できる。	*医療過誤については，法的責任について理解し，詳細については，看護管理で扱う。 *仕組みの詳細は，社会福祉で取り扱う。
評価の観点と趣旨			評価の方法
・関係法規について体系的・系統的に理解し，多面的に捉えて対応する基礎的な知識と技術を身につけることができる。			・終講試験 ・グループ討議，発表 ・学習態度 ・提出物 ・出席状況
・関係法規に関する基礎的な課題を発見し，看護の職業倫理を踏まえて解決する力を身に付けている。			
・よりよい看護の実践を目指して自ら学び，人々の健康の保持増進に主体的かつ協働的に取り組んでいる。			

專門分野

科目 看護学概論	担当講師 専攻科教諭	単位数 1 単位 時間数 32 時間	対象学年 1 年次
目 標	1 看護について体系的・系統的に理解し、関連する基礎的な技術を身に付ける。 2 看護に関する基礎的な課題を発見し、看護の職業倫理を踏まえて合理的かつ創造的に解決する力を養う。 3 よりよい看護の実践を目指して自ら学び、人々の健康の保持増進に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。		
テキスト・参考書など	・新体系看護学全書「基礎看護学①看護学概論」：メヂカルフレンド社 ・新体系看護学全書「基礎看護学②基礎看護技術Ⅰ」：メヂカルフレンド社 ・別巻 看護管理／看護研究／看護制度：メヂカルフレンド社 ・わかりやすいケーススタディの進め方：照林社		
回 数	学 習 内 容	学 習 の ね ら い	備 考
1～5 6～20 21～25 26～31	1 看護実践を支えるもの 2 看護実践の方法 ・看護過程 ・看護研究 3 協働する専門職 4 看護における倫理	・看護職の成立と発展，養成制度やキャリア開発について考える。 ・看護過程の展開 ゴードンの枠組みを用いたアセスメント サマリーとは何か ・看護研究，ケーススタディについて学ぶ。 ・看護の役割と機能，チーム医療や看護サービスの管理について理解する。 ・倫理を学ぶ必要性や医療・看護をめぐる倫理的問題について理解する。	・看護観についてレポート作成 ・高校3年時の事例をもとにサマリーを作成 ・成人実習前に研究計画書を作成 ・倫理問題に関するディベート ・ディベート後レポート ・講義を受けて看護観についてレポート作成
評価の観点と趣旨			評価の方法
・看護について体系的・系統的に理解し、関連する基礎的な技術を身に付けている。			・終講試験 ・演習技術確認 ・グループ討議・発表 ・課題，レポート ・ノート，課題の提出 ・出席状況
・看護に関する基礎的な課題を発見し、看護の職業倫理を踏まえて合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。			
・よりよい看護の実践を目指して自ら学び、人々の健康の保持増進に主体的かつ協働的に取り組んでいる。			

科目 基礎看護技術	担当講師 専攻科教諭	単位数 3単位 時間数 94時間	対象学年 1年次
目 標	1 看護について体系的・系統的に理解し、関連する基礎的な技術を身に付ける。 2 看護に関する基礎的な課題を発見し、看護の職業倫理を踏まえて合理的かつ創造的に解決する力を養う。 3 よりよい看護の実践を目指して、日常生活の援助及び診療に伴う援助における看護の課題解決に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。		
テキスト・参考書など	・基礎看護学②基礎看護学技術Ⅰ 基礎看護学③基礎看護学技術Ⅱ：メヂカルフレンド社 ・看護がみえる①基礎看護技術 ・看護がみえる②臨床看護技術：メディックメディア		
回数	学 習 内 容	学 習 の ね ら い	備 考
1～94 (詳細別紙あり)	1 フィジカルアセスメント 2 食事と栄養 3 呼吸・循環・体温調節 4 与薬・輸液・輸血管理 5 創傷管理 6 診察・検査・処置 7 実習前総合実習	・看護におけるフィジカルアセスメントの意義を理解し、フィジカルアセスメントの技術を習得し、活用することができる。 ・中心静脈栄養、経静脈栄養法について理解する。 ・検査の目的を理解し、援助方法がわかる。 ・与薬の目的を理解し、適切な援助方法がわかる。 ・治療・処置の意義・目的を理解し、対象のニーズを知り、援助方法について学ぶ。 ・包帯の目的と種類及び包帯法の原則を理解できる。 ・診察の援助の目的と対象の心理を理解し、援助方法が理解できる。 ・これまでの看護技術の学習および基礎実習での体験をもとに、対象に合わせて安全に援助ができる。	
評価の観点と趣旨			評価の方法
・看護について体系的・系統的に理解し、関連する基礎的な技術を身に付けている。また、説明できる。			・終講試験（3回） ・グループ討議、発表 ・学習態度 ・提出物 ・出席状況
・看護に対する基礎的な技術を発見し、看護の職業倫理を踏まえて合理的かつ創造的に解決できる。			
・基礎看護について、よりよい看護の実践を目指して自ら学ぶ。日常生活の援助及び診療に伴う援助における課題解決に、主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。			

科目 臨床看護概論	担当講師 専攻科教諭	単位数 1 単位 時間数 1 6 時間	対象学年 2 年次
目 標	1 看護について体系的・系統的に理解し、関連する基礎的な技術を身に付ける。 2 看護に関する基礎的な課題を発見し、看護の職業倫理を踏まえて合理的かつ創造的に解決する力を養う。 3 よりよい看護の実践を目指して、日常生活の援助及び診療に伴う援助における看護の課題解決に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。		
テキスト・参考書など	・看護学生のためのわかりやすいケーススタディの進め方 : 照林社 ・授業配布資料		
回 数	学 習 内 容	学 習 の ね ら い	備 考
1～16	ケーススタディ	・看護研究の講義内容を想起しながら、ケーススタディに取り組む。 ・看護現象の客観的、科学的理解と倫理的表現ができる。 看護実践の振り返り／対象の反応について科学的追及／看護実践の論述／批判的思考での評価／プレゼンテーション	臨地実習の受け持ち患者を通してケーススタディを行う。
評価の観点と趣旨			評価の方法
・看護について体系的・系統的に理解し、関連する基礎的な技術を身に付けている。また、説明できる。			ケーススタディ評価表に準ずる
・看護に対する基礎的な技術を発見し、看護の職業倫理を踏まえて合理的かつ創造的に解決できる。			
・基礎看護について、よりよい看護の実践を目指して自ら学ぶ。日常生活の援助及び診療に伴う援助における課題解決に、主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。			

科目 地域・ 在宅看護論	担当講師 専攻科教諭	単位数 2単位 時間数 32時間	対象学年 1年次
目 標	1 地域・在宅看護について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付ける。 2 地域・在宅看護に関する多様な課題を発見し、看護の職業倫理を踏まえて合理的かつ創造的に解決する力を養う。 3 地域・在宅看護について、よりよい看護の実践を目指して自ら学び、在宅療養者の健康の保持増進に主体的かつ協働的に取り組む力を養う。		
テキスト・ 参考書など	新体系 看護学全書「地域・在宅看護論」：メヂカルフレンド 地域・在宅看護過程第2版：医学書院 国民衛生の動向：厚生労働統計協会 在宅看護論 第1～5巻 DVD はじめよう精神訪問看護 DVD		
回 数	学 習 内 容	学 習 の ね ら い	備 考
1～32	1 地域・在宅看護の対象 2 在宅療養を支える制度 3 在宅療養者と家族への支援	・対象を理解するためのモデルや理論を理解する。また在宅看護の理念やと看護実践との関連を理解する。 ・訪問看護の基盤となる制度や提供システムを理解する。 ・地域包括支援センターの役割を理解する。 ・在宅看護過程の特徴と展開方法を理解する。ケアマネジメント、家族支援の展開方法を理解する。 ・エンド・オブライフ・ケアを受ける療養者家族の状況を踏まえて、支援の方法を理解する。	・DVD①② ・調べ学習 ・フィールドワーク ・演習：看護過程事例 ALS, 筋ジストロフィー 実技：洗髪の援助 コミュニケーション技法 DVD 後レポート課題
評価の観点と趣旨			評価の方法
・地域・在宅看護の対象，制度，療養者・家族への支援について理解している。			終講試験 実技 グループ討議・発表 提出物〔レポート〕 看護過程事例 学習態度
・在宅療養を支える制度の実際について基本的な課題を発見し倫理観を踏まえて合理的かつ創造的に解決策をあげている。			
・在宅療養者と家族の支援について自ら学び，在宅療養者の生活の質向上を目指し，主体的・協働的に取り組んでいる。			

科目 地域・ 在宅看護論	担当講師 専攻科教諭	単位数 3単位 時間数 47時間	対象学年 2年次
目 標	1 在宅看護について体系的・系統的に理解し、関連する基礎的な技術を身に付ける。 2 在宅看護に関する基礎的な課題を発見し、看護の職業倫理を踏まえて合理的かつ創造的に解決する力を養う。 3 在宅看護について、よりよい看護の実践を目指して、日常生活の援助及び診療に伴う援助における看護の課題解決に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。		
テキスト・ 参考書など	地域・在宅看護論：メヂカルフレンド社 国民衛生の動向：厚生労働統計協会 在宅看護論第1～5巻 DVD 地域・在宅看護過程第2版：医学書院 はじめよう精神訪問看護 DVD		
回 数	学 習 内 容	学 習 の ね ら い	備 考
1～32	1 在宅療養と家族の支援 1) 在宅における援助技術 ・日常生活援助、医療的ケア ・リスクアセスメント ・災害マネジメント 2) 在宅看護における安全と健康危機管理 ・日常生活における安全管理 ・災害における在宅療養者と家族の健康危機管理	・家庭訪問の手順・倫理と心構え、リスクマネジメントを理解できる。 ・在宅看護における、食生活・排泄・移動・清潔・移乗・呼吸・褥瘡のアセスメントや援助方法を理解する。 ・地域包括ケアシステムづくりのプロセスを理解する。 ・療養の場におけるリスクの特徴や日常生活の場で発生する事故や問題を考える。 ・療養者・家族への災害準備期の支援と多職種連携を理解する。	・DVD 後課題レポート ・実技〔家庭訪問〕 ・服薬管理 ・調べ学習 ・看護過程 ・はじめよう精神科訪問看護 DVD ・在宅看護技術④⑤ DVD ・事例から健康危機、災害時の課題をグループ討議
評価の観点と趣旨			評価の方法
・在宅療養者と家族への支援について理解し、関連する技術を身に付けている。			終講試験 学習態度 実技 グループ討議・発表 提出物〔レポート〕 看護過程
・在宅療養者と家族の支援について多様な課題を発見し、倫理観を踏まえて合理的かつ創造的に解決策を見出している。			
・在宅療養者と家族の支援について自ら学び、在宅療養者の生活の質向上を目指し、主体的・協働的に取り組んでいる。			

科目 成人看護学	担当講師 専攻科教諭	単位数 3単位 時間数 92時間	対象学年 1年次
目 標	1 成人看護について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 2 成人看護に関する多様な課題を発見し、看護の職業倫理を踏まえて合理的かつ創造的に解決する力を養う。 3 成人看護について、よりよい看護の実践を目指して自ら学び、成人の健康の保持増進に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。		
テキスト・参考書など	成人看護学①成人看護学概論／成人保健 成人看護学②呼吸器 成人看護学③循環器 成人看護学⑤循環器 成人看護学⑦腎・泌尿器 成人看護学⑧内分泌／栄養・代謝 成人看護学⑩女性生殖器 経過別成人看護学①急性期看護:クリティカルケア 経過別成人看護学②周手術期看護 経過別成人看護学③慢性期看護 経過別成人看護学④終末期看護:エンド・オブ・ライフ・ケア その他講義に係るテキスト 全てメヂカルフレンド社		
回 数	学 習 内 容	学 習 の ね ら い	備 考
1～92 (別紙確認)	1 成人の健康と看護 2 健康レベルや障害の状況に応じた看護 3 機能障害のある患者への看護 ・呼吸機能障害 ・循環機能障害 ・消化・吸収機能障害 ・栄養代謝機能障害 ・内部環境調節機能障害 ・排尿機能障害 ・性・生殖・乳腺機能障害	・成人期における対象の発達段階・発達課題及び発達の特徴をとらえ成人期の健康についての視点から多面的・包括的に理解する。 ・急性期・慢性期・終末期における看護を理解する。 ・リハビリテーション看護・がん看護を理解する。 ・様々な健康レベルの人や障害がある人の看護について、実践的・体験的な学習活動を通じて知識と技術を習得するとともに、習得した知識と技術を人々に応じて適切に活用できるようにする。 ・成人期にある健康状況に応じた看護の展開ができる。	
評価の観点と趣旨			評価の方法
・成人看護について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。			・終講試験 ・グループ討議，発表 ・学習態度 ・提出物 ・出席状況
・成人看護に関する多様な課題を発見し、看護の職業倫理を踏まえて合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。			
・成人看護について、よりよい看護の実践を目指して自ら学び、成人の健康の保持増進に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。			

科目 成人看護学	担当講師 専攻科教諭・外部講師	単位数 2単位 時間数 70時間	対象学年 2年次
目 標	1 成人看護について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 2 成人看護に関する多様な課題を発見し、看護の職業倫理を踏まえて合理的かつ創造的に解決する力を養う。 3 成人看護について、よりよい看護の実践を目指して自ら学び、成人の健康の保持増進に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。		
テキスト・参考書など	成人看護学④血液・造血器 成人看護学⑥脳・神経 成人看護学⑦腎・泌尿器 成人看護学⑪運動器 成人看護学⑫皮膚／眼 成人看護学⑬耳鼻咽喉／歯・口腔 【泌尿器科分野】疾病の成り立ちと回復の促進 疾病と治療⑨腎・泌尿器/女性生殖器 【耳鼻咽喉科】【皮膚科分野】疾病の成り立ちと回復の促進 疾病と治療⑬皮膚/眼/耳鼻咽喉/歯・口腔 その他関連するテキスト メヂカルフレンド社		
回 数	学 習 内 容	学 習 の ね ら い	備 考
1～70 (別紙確認)	1 健康レベルや障害の状況に応じた看護 ・身体防御機能 ・脳・神経機能障害 ・運動機能障害 ・感覚機能障害 ・排尿機能障害 2 健康障害を引き起こす病因・病変 ※外部講師 ・耳鼻咽喉科（9時間） ・皮膚科（6時間） ・腎・泌尿器（6時間）	・様々な健康レベルの人や障害がある人の看護について、実践的・体験的な学習活動を通じて知識と技術を習得するとともに、習得した知識と技術を人々に応じて適切に活用できるようにする。 ・病理学の概要、健康障害を引き起こす病因、病変を理解できる。	
評価の観点と趣旨			評価の方法
・成人看護について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。			・終講試験 ・グループ討議，発表 ・学習態度 ・提出物 ・出席状況
・成人看護に関する多様な課題を発見し、看護の職業倫理を踏まえて合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。			
・成人看護について、よりよい看護の実践を目指して自ら学び、成人の健康の保持増進に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。			

科目 老年看護学	担当講師 専攻科教諭	単位数 1 単位 時間数 3 2 時間	対象学年 1 年次
目 標	1. 老年看護について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付ける。 2. 老年看護に関する多様な課題を発見し、看護の職業倫理を踏まえて合理的かつ創造的に解決する力を養う。 3. 老年看護について、よりよい看護の実践を目指して自ら学び、高齢者の健康の保持増進に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。		
テキスト・参考書など	専門分野 老年看護学① 老年看護学概論／老年保健 : メヂカルフレンド社 老年看護学② 健康障害を持つ高齢者の看護 : メヂカルフレンド社 別巻 ヘルスプロモーション : メヂカルフレンド社 別巻 リハビリテーション看護 : メヂカルフレンド社 「国民衛生の動向」 厚生統計協会		
回 数	学 習 内 容	学 習 の ね ら い	備 考
1～32	1. 看護対象としての高齢者の理解 2. 経過別にみた老年看護（ヘルスプロモーション、急性期・慢性期・終末期・リハビリテーション） 3. 高齢者のくらしを支える援助 4. 高齢者特有の疾患と看護（認知症、脳・神経障害、皮膚疾患、感覚器疾患） 5. 地域・在宅における老年看護	・高齢者に関する統計、加齢に伴う様々な変化、ライフサイクルにおける老年期の特徴や課題を学ぶことにより、高齢者に対する理解を深める。 ・高齢者に必要な健康支援と看護の特徴の理解を深める。 ・高齢者の健康の定義、ヘルスプロモーション、各期の特徴を踏まえ、起こりやすい多様な課題について理解する。 ・高齢者の安全を守り、当事者の意思を尊重し、地域連携を含めた看護を理解する。 ・高齢者特有の疾患の概要と看護・アセスメントの方法を学ぶ。 ・健康障害のある高齢者の家族への看護を理解する。 施設の特徴の理解を深めるとともに、地域密着サービスにおける看護の役割を理解する。	・統計調査の調べ学習 ・視聴覚教材 ・グループ討議 ・看護過程 別巻 ヘルスプロモーション 第4章 III 「高齢者のヘルスプロモーション」 別巻 リハビリテーション看護 第5章 発達と老化からみた支援 C 老年期
評価の観点と趣旨			評価の方法
・老年看護について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。 ・老年看護に関する多様な課題を発見し、看護の職業倫理を踏まえて合理的かつ創造的に解決する力を身につけている。 ・老年看護について、よりよい看護の実践を目指して自ら学び、高齢者の健康の健康増進に主体的かつ協働的に取り組んでいる。			・終講考査 提出物〔レポート〕 ・学習態度 ・グループ討議・発表

科目 老年看護学	担当講師 専攻科教諭	単位数 2単位 時間数 32時間	対象学年 2年次
目 標	1. 老年看護について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付ける。 2. 老年看護に関する多様な課題を発見し、看護の職業倫理を踏まえて合理的かつ創造的に解決する力を養う。 3. 老年看護について、よりよい看護の実践を目指して自ら学び、高齢者の健康の保持増進に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。		
テキスト・参考書など	老年看護学① 老年看護学概論／老年保健 : メヂカルフレンド社 老年看護学② 健康障害をもつ高齢者の看護 : メヂカルフレンド社 別巻 臨床外科看護学Ⅱ : メヂカルフレンド社 国民衛生の動向 : 厚生労働統計協会		
回 数	学 習 内 容	学 習 の ね ら い	備 考
1～32	1, 高齢者のくらしを支える援助 2. 治療における高齢者の看護 3, 高齢者特有の疾患と看護	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者のくらしを支える基本的援助の意義と方法を学ぶ。 ・高齢者の薬物動態を理解し、高齢者の服薬管理や援助の注意点を理解する。 ・手術をうける高齢者の特徴と看護, 高齢者に対するがんの治療と看護について理解する。 ・高齢者の安全を守り、当事者の意思を尊重し、地域連携を含めた看護を理解する。 ・高齢者特有の疾患の概要と看護・アセスメントの方法を理解し、説明できる。 ・健康障害をもつ高齢者の家族に対する看護・アセスメントの方法を理解し、説明できる。 ・COPD は成人看護学〔呼吸器〕で取り扱う。 ・せん妄・うつは精神看護学で取り扱う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・プレテスト ・グループ討議 別巻 臨床外科看護学Ⅱ 第6章 「高齢者の手術とその問題」
評価の観点と趣旨			評価の方法
<ul style="list-style-type: none"> ・老年看護について体系的・系統的に理解し、関連する技術を身に付けている。 			<ul style="list-style-type: none"> ・終講試験 ・学習態度 ・提出物 ・出席状況
<ul style="list-style-type: none"> ・老年看護に関する多様な課題を発見し、看護の職業倫理を踏まえて合理的かつ創造的に解決する力を身につけている。 			
<ul style="list-style-type: none"> ・老年看護について、よりよい看護の実践を目指して自ら学び、高齢者の健康の保持増進に主体的かつ協働的に取り組んでいる。 			

科目 小児看護学	担当講師 専攻科教諭・外部講師	単位数 1 単位 時間数 3 2 時間	対象学年 1 年次
目 標	1 小児看護について体系的・系統的に理解し、関連する基礎的な技術を身に付ける。 2 小児看護に関する基礎的な課題を発見し、看護の職業倫理を踏まえて合理的かつ創造的に解決する力を養う。 3 よりよい看護の実践を目指して自ら学び、人々の健康の保持増進に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。		
テキスト・参考書など	・新体系看護学全書「小児看護学①小児看護学概論/小児保健」：メジカルフレンド社 ・新体系看護学全書「小児看護学②健康障害をもつ小児の看護」：メジカルフレンド社		
回 数	学 習 内 容	学 習 の ね ら い	備 考
1～18 (外部講師)	1 小児医療・小児保健の役割と特性 2 染色体異常・先天異常 3 新生児の特徴と疾患 4 系統臓器別疾患 ・皮膚疾患 ・眼疾患 ・耳鼻咽喉疾患 ・呼吸器疾患 ・循環器疾患 ・消化器疾患 ・腎・泌尿器疾患 ・運動器疾患 ・神経・筋疾患 ・血液疾患と腫瘍 ・感染症 ・内分泌・代謝疾患 ・アレルギー疾患 ・免疫疾患・リウマチ性疾患 ・精神疾患とメンタルヘルス ・神経発達症群 ・外傷・小児救急	・先天性異常の特徴を理解する ・小児期に生じる疾患の特徴を系統臓器別に理解する	
19～32 (科内教員)	1 発達障害 2 健康問題・障害が小児と家族に与える影響と看護	・発達障害や障害児保健について理解する ・健康障害が小児・家族に与える影響を理解する	
評価の観点と趣旨			評価の方法
・小児看護について体系的・系統的に理解し、関連する基礎的な技術を身に付けている。			・終講試験 ・学習態度 ・提出物 ・出席状況
・小児看護に関する基礎的な課題を発見し、看護の職業倫理を踏まえて合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。			
・よりよい看護の実践を目指して自ら学び、人々の健康の保持増進に主体的かつ協働的に取り組んでいる。			

科目 小児看護学	担当講師 専攻科教諭	単位数 1 単位 時間数 3 2 時間	対象学年 2 年次
目 標	1 小児看護について体系的・系統的に理解し、関連する基礎的な技術を身に付ける。 2 小児看護に関する基礎的な課題を発見し、看護の職業倫理を踏まえて合理的かつ創造的に解決する力を養う。 3 よりよい看護の実践を目指して自ら学び、人々の健康の保持増進に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。		
テキスト・参考書など	新体系看護学全書「小児看護学①小児看護学概論/小児保健」 メジカルフレンド社 新体系看護学全書「小児看護学②健康障害をもつ小児の看護」 メジカルフレンド社		
回 数	学 習 内 容	学 習 の ね ら い	備 考
1～16 17～32	1 小児にみられる主な症状と看護 2 検査や処置の手法と看護 3 ヘルスアセスメントの手法 4 災害を受けた小児と家族への看護 5 虐待を受けている小児と家族への看護 6 小児によくみられる疾患とその看護	・小児にみられる主な症状と症状のある小児への看護について理解する。 ・小児の主要疾患の特徴、治療、看護を理解する。 ・健康障害のある小児に必要な看護技術を理解する。 ・災害における心のケアの本質と必要な体験を説明できるようになる。 ・小児への虐待の特徴と支援の方法を学ぶ。 ・小児期にある対象の特徴を理解し、各発達段階にある小児とその家族に応じた必要な援助を理解する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> ※小児救急に関しては上級救命講習を想起させ、取り扱う。 </div>	・DVD 視聴を取り入れる ・プレパレーション実施 ・小児 VS 測定演習 ・保育器内の小児の看護演習 ・ポジショニング演習 ・アセスメント事例集を用いて看護過程の展開を実施 ・川崎病 ・ネフローゼ症候群
評価の観点と趣旨			評価の方法
・小児看護について体系的・系統的に理解し、関連する基礎的な技術を身に付けている。			・終講試験 ・学習態度 ・提出物 ・出席状況
・小児看護に関する基礎的な課題を発見し、看護の職業倫理を踏まえて合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。			
・よりよい看護の実践を目指して自ら学び、人々の健康の保持増進に主体的かつ協働的に取り組んでいる。			

科目 母性看護学	担当講師 専攻科教諭・外部講師	単位数 2単位 時間数 32時間	対象学年 1年次
目 標	1 母性看護について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 2 母性看護に関する多様な課題を発見し、看護の職業倫理を踏まえて合理的かつ創造的に解決する力を養う。 3 母性看護について、よりよい看護の実践を目指して自ら学び、母性の健康の保持増進に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。		
テキスト・参考書など	母性看護学①母性看護学概論／ウィメンズヘルスと看護：メヂカルフレンド社 母性看護学②マタニティサイクルにおける母子の健康と看護：メヂカルフレンド社 根拠と事故防止からみた母性看護技術：医学書院		
回 数	学 習 内 容	学 習 の ね ら い	備 考
1～15 (外部講師)	1 周産期にある母子の生理と看護（正常・異常）	<ul style="list-style-type: none"> ・周産期の正常について理解し、ハイリスク妊婦の身体的特性と心理的・社会的特性・アセスメント及び看護を理解する。 ・周産期の正常に関する基本的な看護の知識と技術を習得し、その知識と技術を適切に活用できるようにする。 	
16～32	2 母性の健康と看護	<ul style="list-style-type: none"> ・母性の基本となる概念・母性の捉え方、母子保健の現状、母性看護に関わる倫理的問題についての理解を深める。 	
	3 女性のライフサイクル各期の健康課題と看護	<ul style="list-style-type: none"> ・ライフサイクル各期における母性の発達と健康課題の学習を通して、母性の健やかな育成と加齢による影響について理解を深める。 	
	4 正常経過にある対象の看護の展開	<ul style="list-style-type: none"> ・事例を通して正常な妊娠期・分娩期・産褥期の母児の看護過程展開方法が理解できる。 ・ウェルネス志向について理解する。 	
評価の観点と趣旨			評価の方法
<ul style="list-style-type: none"> ・母性看護について体系的・系統的に理解し、関連する基礎的な技術を身に付けている。 			<ul style="list-style-type: none"> ・終講試験 ・技術確認 ・学習態度 ・提出物 ・出席状況
<ul style="list-style-type: none"> ・母性看護に関する基礎的な課題を発見し、看護の職業倫理を踏まえて合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。 			
<ul style="list-style-type: none"> ・母性看護について、よりよい看護の実践を目指して自ら学び、人々の健康の保持増進に主体的かつ協働的に取り組んでいる。 			

科目 母性看護学	担当講師 専攻科教諭・外部講師	単位数 2単位 時間数 32時間	対象学年 2年次
目 標	1 母性看護について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 2 母性看護に関する多様な課題を発見し、看護の職業倫理を踏まえて合理的かつ創造的に解決する力を養う。 3 母性看護について、よりよい看護の実践を目指して自ら学び、母性の健康の保持増進に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。		
テキスト・参考書など	母性看護学①母性看護学概論／ウィメンズヘルスと看護：メヂカルフレンド社 母性看護学②マタニティサイクルにおける母子の健康と看護：メヂカルフレンド社 根拠と事故防止からみた母性看護技術：医学書院 国民衛生の動向：厚生統計協会		
回 数	学 習 内 容	学 習 の ね ら い	備 考
1～15 (外部講師)	1 周産期にある母子の生理と看護（正常・異常） ・産褥期 ・新生児期	・周産期の正常と異常について理解し、ハイリスク妊婦の身体的特性と心理的・社会的特性・アセスメント及び看護を理解する。 ・性、生殖の構造と機能の理解をもとに、主な疾患をもつ人を取り上げ、必要な検査や看護を理解する。	※DVD 視聴，演習を取り入れ理解を深める。
16～32	2 母性看護に関する技術	・診察時の諸計測，褥婦の看護技術，新生児のバイタルサイン・看護技術について実施できる。	
	5 総まとめ	・母性看護学における知識を統合できる。	
評価の観点と趣旨			評価の方法
・母性看護について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。			・終講試験 ・グループ討議，発表 ・学習態度 ・提出物 ・出席状況
・母性看護に関する多様な課題を発見し、看護の職業倫理を踏まえて合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。			
・母性看護について、よりよい看護の実践を目指して自ら学び、母性の健康の保持増進に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。			

科目 精神看護学	担当講師 外部講師・専攻科教諭	単位数 2 単位 時間数 32 時間	対象学年 1 年次
目 標	1 精神看護の基本的な概念を通して精神の健康と精神保健の考え方, 精神保健の現状, 精神看護に関わる倫理的課題の現状について理解する。 2 精神医療や精神看護の歴史を通して, 人権擁護, 地域で自立した生活を続けるための支援の重要性を踏まえ, 生活を支える制度について理解し, 必要な援助を実践できる。		
テキスト・参考書など	専門分野 精神看護学① 精神看護学概論／精神保健 第6版：メヂカルフレンド社 精神看護学② 精神障害をもつ人の看護 第6版：メヂカルフレンド社 精神科看護技術の展開 : 中央法規 国民衛生の動向：厚生統計協会		
回 数	学 習 内 容	学 習 の ね ら い	備 考
1～16 (外部講師)	1.精神の健康と看護 ・精神保健・地域精神保健 ・精神機能の構造と発達 ・ストレスと危機 ・適応と不適応 ・精神看護の特徴 2精神疾患の診断基準 3 主な精神障害と看護 ・症状性を含む器質性精神障害	・精神看護の基本となる概念の学習を通して, 精神の健康と精神保健の考え方, 精神保健の現状, 精神看護に関わる倫理的課題の現状について理解を深める。	グループワーク 調べ学習 ※精神保健の動向については, 専2の社会福祉で学ぶ
17～32 (科内教員)	4 精神障害の状態に応じた看護 ・精神の発達 ・関わり方 (コミュニケーション・プロセスレコード) ・入院形態 ・地域移行支援 ・事故防止／安全管理 (保護室・隔離室・身体拘束) ・セルフケア促進	・精神に障害等がある人が差別, 偏見, 隔離, 収容などによって人権を侵害される状況に置かれた歴史を理解した上で, 当事者の人権の擁護, 地域で自立した地域で生活を続ける為の支援の重要性を踏まえ, 生活を支える制度について理解し, 適切に活用できるようにする。	プロセスレコード グループワーク 調べ学習
評価の観点と趣旨			評価の方法
・精神の健康と看護について理解し, 関連する技術を身に付けている。 ・社会の変化とともに変わってきた精神医療や関連する制度の概要について理解し, 関連する技術を身に付けている。			・終講試験 ・グループ討議, 発表 ・学習態度 ・事前学習 ・提出物 ・レポート内容 ・出席状況
・精神の健康と看護に関わる多様な課題を発見し, 倫理観を踏まえ解決策を見出せる。 ・精神医療や関連する制度の実際について基本的な課題を発見し, 倫理観を踏まえ解決策を見出せる。			
・精神の健康と看護について自ら学び, 人々の心身の健康保持増進を目指して主体的かつ協働的に取り組んでいる。 ・精神に障害等がある人の権利を擁護し, 地域で自立した生活を目指す看護について自ら学び, 精神保健医療福祉の多職種と連携して, 主体的かつ協働的に取り組んでいる。			

科目 精神看護学	担当講師 外部講師・専攻科教諭	単位数 2単位 時間数 32時間	対象学年 2年次
目 標	1 精神に障害等がある場合の検査・治療，各期における看護の学習を通して，精神障害等による心身の苦痛や生活の困難さについて理解し，回復の促進及び生活の自立等に向けた看護を実践できる。 2 主な精神障害の特徴に応じた看護を実践できる。		
テキスト・参考書など	専門分野 精神看護学① 精神看護学概論／精神保健 第6版：メヂカルフレンド社 精神看護学② 精神障害をもつ人の看護 第6版：メヂカルフレンド社 精神科看護技術の展開：中央法規 国民衛生の動向：厚生統計協会		
回 数	学 習 内 容	学 習 の ね ら い	備 考
1～16 (外部講師)	1.精神保健医療福祉の変遷 ・精神保健の歴史／法制度 ・精神に障害のある人の権利擁護 ・精神保健福祉制度の変遷 ・精神保健 2精神疾患の主な治療法 精神科的診察 3看護過程の展開 4精神科病棟における事故防止 5リエゾン精神看護 6災害時の精神看護	・主な精神障害の特徴に応じた看護を通して，精神障害等による心身の苦痛や生活の困難さについて理解を深め，回復の促進及び自立等に向けた看護の基本的な知識と技術を習得し，習得した知識と技術を人々に応じて適切に活用できる実践力を身につける。	・グループワーク ・事例学習 ・DVD視聴 「パーソナリティ障害」 「双極性障害」 「統合失調症」
17～32 (科内教員)	7精神障害と差別 8精神障害をもつ人への援助 ・セルフケア援助 ・地域生活支援 ・多職種連携 9現代社会の特徴	・精神障害の特徴に応じた看護の知識と技術について実践的・体験的な学習活動を通じて習得し，習得した知識と技術をその状況に応じて活用する力を身につける。	・地域社会で生活を行なっている患者の状況や訪問看護の状況を視聴し，看護の実際を学習する。
評価の観点と趣旨			評価の方法
・精神障害の状況に応じた看護について理解し，関連する技術を身に付けている。 主な精神疾患と看護について理解し，関連する技術を身に付けている。			・終講試験 ・グループ討議 ・発表 ・学習態度 ・事前学習 ・レポート内容 ・出席状況
・精神障害の状況に応じた多様な課題を発見し，当事者の権利を擁護した上で，回復の促進並びに自立支援を目指して解決策を見出せる。 ・主な精神疾患に応じた多様な課題を発見し，当事者の権利を擁護した上で，安全・安楽を守り，症状の緩和並びに生活の質の改善に向けて解決策を見出せている。			
・精神障害の状況に応じた看護について自ら学び，当事者の多様な価値観等を尊重した上で，医療チームの一員として主体的かつ協働的に取り組んでいる。 ・主な精神疾患と看護について自ら学び，当事者の多様な価値観を尊重した上で，医療チームの一員として主体的かつ協働的に取り組んでいる。			

科目 災害看護・国際看護 看護管理	担当講師 専攻科教諭・外部講師	看護管理 32時間 2単位 災害看護 16時間 1単位 国際看護 16時間 1単位	対象学年 2年次
目 標	1. 看護の統合の実践について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付ける。 2. 看護の統合と実践に関する多様な課題を発見し、看護の職業倫理を踏まえて合理的かつ創造的に解決する力を養う。 3. 看護の統合と実践について、よりよい看護の実践を目指して自ら学び、人々の健康の保持増進に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。		
テキスト・参考書など	看護の統合と実践① 看護実践マネジメント/医療安全：メヂカルフレンド社 看護の統合と実践② 災害看護学：メヂカルフレンド社 看護の統合と実践③ 国際看護学：メヂカルフレンド社 別巻 看護管理/看護研究/看護制度：メヂカルフレンド社		
回 数	学 習 内 容	学 習 の ね ら い	備 考
1～32	1 看護のマネジメント 1) 看護の活動の質の保証と向上 2) 医療安全のマネジメント 3) 多重課題のマネジメント 4) 多職種連携 5) 看護をとりまく諸制度	・社会の変化に対応して、よりよい看護を提供するために、スタッフとしての看護活動、組織としての看護活動、地域における看護活動看護活動と制度との関係について現状を分析して課題を発見できる。 ・それぞれの看護活動を関連付け、統合して考える事ができる。	・実際の臨地で起こりやすい基本的な多重課題の場面を設定し、実施・振り返りを行う。
1～8 (外部講師) 9～16 (科内教員)	2 災害看護 1) 災害の種類と医療 2) 災害看護の特徴 3) 災害各期の看護	・災害における人的被害を最小にするため、災害看護とその特徴を理解する。 ・災害各期の基本的な看護の知識と技術を体験的な活動を通して理解する。	・本科2年での防災センターの見学を想起、関連づける。 ・身近な地域の災害看護について考える。
1～8 (外部講師) 9～16 (科内教員)	3 国際看護 1) 国際保健 2) 対象のグローバル化 3) 国際看護活動	・国際的な健康課題や保健の現状、多様な文化背景をもつ看護の対象、国際社会における看護活動の実際について理解する。	
評価の観点と趣旨			評価の方法
・看護の統合と実践の看護管理・災害看護・国際看護について理解し、関連する技術を身に付けている。			・終講考査 ・グループ討議・発表内容 ・レポート ・実技 ・事前学習 ・学習態度
・看護の統合と実践の看護管理・災害看護・国際看護について多様な課題を発見し、倫理観を踏まえて合理的かつ創造的に解決策を見出している。			
・看護の統合と実践の看護管理・災害看護・国際看護について自ら学び、よりよい看護の実践を目指し、主体的・協働的に取り組んでいる。			

科目 臨地実習 地域在宅看護論	担当講師 専攻科教諭	単位数 2単位 時間数 70時間	対象学年 2年次
目 標	1 臨地における在宅看護の基本を理解し、関連する技術を身に付ける。 2 臨地における在宅看護に関する多様な課題を発見し、看護の職業倫理を踏まえて課題を探求し、合理的かつ創造的に解決する力を養う。 3 臨地における在宅看護についてよりよい看護の実践を目指して自ら学び、人々の安全と安楽を守り、健康の保持増進と生活の質向上に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。		
テキスト・参考書など	地域・在宅看護論：メヂカルフレンド社 地域・在宅看護過程 第2版：医学書院 看護に関する諸教材及び実習要項 等		
実習項目	学 習 内 容・方法		備 考
訪問看護ステーション	担当看護師と同行訪問 1日2～4件程度受け持ち療養者を1名決め、対象のニーズに応じた看護を考え、指導者と共に見学・参加・実施する。 1) 基本姿勢 訪問時のマナー／コミュニケーション／個人情報保護 2) 在宅療養者と家族の理解 自己決定支援／療養移行支援／家族システム／権利擁護 3) 在宅療養者と介護者への訪問看護の実践 療養生活の援助／治療に伴う援助／安全管理／災害対策 4) 医療ケアの見学 在宅人工呼吸療法／酸素療法／中心静脈栄養／在宅腹膜透析／緩和ケア 等 5) 社会資源の活用 地域在宅ケアシステム／医療保険制度／介護保険制度／訪問看護に関する制度		・訪問前に療養者の基本情報・地域の特性と家族状況を把握しておく。 在宅看護実習記録用紙 【併設事業所での見学】 デイサービス 療養通所介護 小規模多機能事業所 放課後デイサービス
評価の観点と趣旨			評価の方法
・臨地における在宅看護の基本を理解し、関連する技術を身に付ける。 ・臨地における在宅看護に関する多様な課題を発見できる。 看護の職業倫理を踏まえて課題を探求し、合理的かつ創造的に解決しようとしている。 ・臨地における在宅看護についてよりよい看護の実践を目指して自ら学んでいる。 人々の安全と安楽を守り、健康の保持増進と生活の質向上に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。			実習記録 中間・最終カンファレンス 自己評価 実習態度

科目 臨地実習 成人・老年看護学	担当講師 専攻科教諭	単位数・時間数 1年次：2単位 70時間 2年次：2単位 70時間	対象学年 1・2年次
目 標	1 成人看護について体系的・系統的に理解し、関連する基礎的な技術を身に付ける。 2 成人看護に関する基礎的な課題を発見し、看護の職業倫理を踏まえて合理的かつ創造的に解決する力を養う。 3 よりよい成人看護の実践を目指して自ら学び、人々の健康の保持増進に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。		
テキスト・参考書など	実習に関する全ての教科書等		
実習項目	学 習 内 容・方 法		備 考
病院実習	急性期にある対象の看護／回復期にある対象の看護 慢性期にある対象の看護／終末期にある対象の看護 (緩和ケア病棟実習含む) ・対象をとりまく環境の理解 ・基本技術／指導技術／診断，治療に伴う看護 ・援助技術の習得 ・成人を対象とした看護過程の展開 ・成人の加齢に伴う身体的・精神的・社会的特徴について理解できる。 ・疾病や治療の特性に応じて展開される看護を通し，適切な看護を行うための能力と態度を養うことができる。 ・個別援助を通して，基礎看護技術を習得することができる。 ・成人期にある対象の特性・健康段階等より生じる問題を理解し，必要な看護計画の立案，看護の実施・評価まで行うことができる。		※2年間を通して各病期を経験する。 ※緩和ケア病棟の配置は専攻科1年次
評価の観点と趣旨			評価の方法
・臨地における成人看護学の基本を理解し，関連する技術を身に付けている。			臨地実習評価表に準ずる
・臨地における成人看護学に関する多様な課題を発見している。 看護の職業倫理を踏まえて課題を探求し，合理的かつ創造的に解決しようとしている。			
・よりよい看護の実践を目指して自ら学んでいる。 人々の安全と安楽を守り，健康の保持増進と生活の質向上に主体的かつ協働的に取り組んでいる。			

科目 臨地実習 成人老年看護学	担当講師 専攻科教諭	単位数 2単位 時間数 70時間	対象学年 1年次
目 標	<p>1 老年看護領域における看護実践と理論を結び付けて理解し、関連する技術を身に付ける。</p> <p>2 老年看護領域における看護実践について多様な課題を発見し、看護の職業倫理を踏まえて課題を探求し、合理的かつ創造的に解決する力を養う。</p> <p>3 老年看護領域におけるよりよい看護の実践を目指して看護の自ら学び、人々の安全と安楽を守り、健康を維持増進するために主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>		
テキスト・参考書など	<p>専門分野 老年看護学① 老年看護学概論／老年保健 メヂカルフレンド社 老年看護学② 健康障害を持つ高齢者の看護 メヂカルフレンド社</p>		
実習項目	学 習 内 容・方 法		備 考
1. 地域医療	<p>① 長島町フィールドワーク 高齢者との交流，生活状況や地域の特徴の理解 高齢者の多様性，個別性の理解</p> <p>② 診療所内見学、診療の補助，訪問看護に同行訪問 地域医療を支える職種と連携の理解</p> <p>③ 学びの発表（リモート中継）</p>		事前学習 地域マップ作成 フィールドワーク 学びの振り返り 発表〔グループ〕
2. 施設実習	<p>① 特別養護老人ホームにおける臨床講義</p> <p>② 特別養護老人ホーム／グループホーム／ショートステイにおける高齢者の暮らしの理解</p> <p>③ 特別技能実習生との交流 (多職種連携、多職種協働の学び，多文化共生の視点)</p>		療養の場事前学習 実習記録
3. 地域実習	<p>① 療養通所介護を利用する高齢者の理解</p>		
評価の観点と趣旨			評価の方法
<ul style="list-style-type: none"> ・老年看護領域における看護実践と理論を結び付けて理解し、関連する技術を身に付けている。 ・老年看護領域における看護実践について多様な課題を発見している。 ・看護の職業倫理を踏まえて課題を探求し、合理的かつ創造的に解決しようとしている。 ・よりよい看護の実践を目指して自ら主体的に学んでいる。 ・人々の安全と安楽を守り、健康を維持増進するために主体的かつ協働的に取り組んでいる。 			<p>実習態度 安全なケアの実施 実習評価表 実習記録 事前学習 自己評価</p>

科目 臨地実習 小児看護学	担当講師 専攻科教諭	単位数 2単位 時間数 70時間	対象学年 1年次
目 標	1 小児看護について体系的・系統的に理解し、関連する基礎的な技術を身に付ける。 2 小児看護に関する基礎的な課題を発見し、看護の職業倫理を踏まえて合理的かつ創造的に解決する力を養う。 3 よりよい看護の実践を目指して自ら学び、人々の健康の保持増進に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。		
テキスト・参考書など	新体系看護学全書「小児看護学①小児看護学概論/小児保健」 メジカルフレンド社 新体系看護学全書「小児看護学②健康障害をもつ小児の看護」メジカルフレンド社 その他実習に必要な教科書類		
実習項目	学 習 内 容・方法		備 考
保育園実習 (3日間) 療育センター (4日間) 特別支援学校 出水(2日間)	<ul style="list-style-type: none"> ・0歳児から5歳児のクラスに入り、小児の発達を学ぶ。 ・日常生活の援助、保育に参加する。 ・障害のある小児との関わりを通して療育と保育の違いを学ぶ。 ・就学につながる連携を知る。 ・医療的ケア児に必要なケアを学ぶ。 		
評価の観点と趣旨			評価の方法
<ul style="list-style-type: none"> ・小児看護について体系的・系統的に理解し、関連する基礎的な技術を身に付けている。 ・小児看護に関する基礎的な課題を発見し、看護の職業倫理を踏まえて合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。 ・よりよい看護の実践を目指して自ら学び、人々の健康の保持増進に主体的かつ協働的に取り組んでいる。 			臨地実習評価表に準ずる

科目 臨地実習 母性看護学	担当講師 専攻科教諭	単位数 時間数	1 単位 3 5 時間	対象学年 1 年次
目 標	1 臨地における母性看護学の基本を理解し，関連する技術を身に付ける。 2 臨地における母性看護学に関する多様な課題を発見し，看護の職業倫理を踏まえて課題を探究し，合理的かつ創造的に解決する力を養う。 3 臨地における母性看護学についてよりよい看護の実践を目指して自ら学び，人々の安全と安楽を守り，健康の保持増進と生活の質向上に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。			
テキスト・参考書など	母性看護学実習要項・学習に必要なテキスト 等			
実習項目	学 習 内 容・方法			備 考
・保健センター実習 （3日間） ・子育て支援室 （1日間） 助産院実習 （1日間）	1) 保健センターで実施されている，母子保健事業・子育て世代包括支援センター事業の見学・参加 2) 保健，医療，福祉の連携の理解 3) 対象を取り巻く地域の現状，支援の実際 4) 母子保健事業と対象への関わりの見学 1) 助産院で実施されているケアの実際を学ぶ。 助産院の見学／施設オリエンテーション 妊婦健康診査／生活指導／授乳指導／育児指導 等			
評価の観点と趣旨				評価の方法
母性看護領域における看護実践と理論を結び付けて理解し，関連する技術を身に付けている。				実習評価表に準ずる
母性看護領域における看護実践について多様な課題を発見している。看護の職業倫理を踏まえて課題を探究し，合理的かつ創造的に解決しようとしている。				
よりよい看護の実践を目指して自ら主体的に学んでいる。人々の安全と安楽を守り，健康を維持増進するために主体的かつ協働的に取り組んでいる。				

科目 臨地実習 母性看護学	担当講師 専攻科教諭	単位数 時間数	1 単位 3 5 時間	対象学年 2 年次
目 標	1 臨地における母性看護学の基本を理解し、関連する技術を身に付ける。 2 臨地における母性看護学に関する多様な課題を発見し、看護の職業倫理を踏まえて課題を探究し、合理的かつ創造的に解決する力を養う。 3 臨地における母性看護学についてよりよい看護の実践を目指して自ら学び、人々の安全と安楽を守り、健康の保持増進と生活の質向上に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。			
テキスト・参考書など	母性看護学に関する諸教材及び実習要綱・対象理解に必要な教科書 等			
実習項目	学 習 内 容・方法			備 考
1 病院 ※産院 (3 日間)	1) 褥婦 (1 事例) を受け持ち、看護展開する。 ※妊娠・分娩・産褥・新生児各期のアセスメント 2) 検査・処置の見学 ※新生児に対する検査・処置 3) 内診台・分娩台体験、胎盤計測等の体験実習			※産院の実習中に校内実習も含む。
2 病院 ※NICU (1 日間)	1) オリエンテーション／院内見学／新生児へのケア見学 ドクターカー見学 等			
2 出前授業 (見学 1 日)	1) 中学生への健康教育の企画・運営・実施 2) プレコンセプションケアサポーターの実施			
評価の観点と趣旨				評価の方法
・母性看護領域における看護実践と理論を結び付けて理解し、関連する技術を身に付けている。				実習評価表に準ずる
・母性看護領域における看護実践について多様な課題を発見している。看護の職業倫理を踏まえて課題を探究し、合理的かつ創造的に解決しようとしている。				
・よりよい看護の実践を目指して自ら主体的に学んでいる。人々の安全と安楽を守り、健康を維持増進するために主体的かつ協働的に取り組んでいる。				

科目 臨地実習 精神看護学	担当講師 専攻科教諭	単位数 1 単位 時間数 35 時間	対象学年 1 年次
目 標	<p>1 既習の知識・技術・態度を統合し看護実践力を身につける。</p> <p>2 精神看護学実習における統合的な看護実践について、多様な課題を発見し、倫理観を踏まえて合理的かつ創造的に解決策をする力を養う。</p> <p>3 精神看護学実習における統合的な看護実践を目指して自ら学び、人々の安全と安楽を守り、健康の保持増進と生活の質向上に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>		
テキスト・参考書など	<p>専門分野 精神看護学①精神看護学概論／精神保健 第6版 メヂカルフレンド社 精神看護学②精神障害をもつ人の看護 第6版 メヂカルフレンド社 精神科看護技術の展開 中央法規 国民衛生の動向：厚生統計協会</p>		
学習項目	学 習 内 容・方法		備 考
病院実習	<p>1 病棟・施設オリエンテーション／臨床講義</p> <ul style="list-style-type: none"> ・精神科病院の概要、特徴 ・治療的環境（保護室・隔離室・身体拘束） ・事故防止・安全管理の実際 ・精神障害をもつ人との関わり方 ・セルフケア促進に向けた援助の実際 ・作業療法の実際 ・地域移行支援の実際 ・障害者支援施設の実際：自立訓練（生活訓練）施設 <p>2 受け持ち対象者に対する看護</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象とのコミュニケーションを通して、自己のコミュニケーションの傾向を明確にする（自己洞察） ・対象者の観察、情報収集を通して精神症状を把握し、症状が生活に及ぼす影響を理解する。 ・対象者の看護援助、作業療法等に参加し、日常生活自立に向けた援助を行う。 <p>3 保護室見学</p> <ul style="list-style-type: none"> ・症状、行動制限、倫理、身体的ケア等急性期のケアの必要性を理解する。 <p>4 学内リフレクション／学びのまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受け持ち患者の看護を通しての学びを整理する。 		<p>施設・病棟見学</p> <p>プロセスレコードを記入し、プロセス検討会を行う 作業療法に参加する 日常生活の見守り及び介助に参加する</p> <p>学びの共有 (ディスカッション)</p>
評価の観点と趣旨			評価の方法
<ul style="list-style-type: none"> ・精神看護学実習における統合的な看護実践について体験を通して体系的・系統的に理解し、関連する技術を身に付ける。 			<ul style="list-style-type: none"> ・実習評価表に準ずる
<ul style="list-style-type: none"> ・精神看護学実習における統合的な看護実践について多様な課題を発見できる。 ・看護の職業倫理を踏まえて課題を探求し、合理的かつ創造的に解決しようとしている。 			
<ul style="list-style-type: none"> ・精神看護学実習における統合的な看護実践について自ら学んでいる。人々の安全と安楽を守り、健康の保持増進と生活の質向上に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。 			

科目 臨地実習 精神看護学	担当講師 専攻科教諭	単位数 1 単位 時間数 35 時間	対象学年 2 年次
目 標	<p>1 既習の知識・技術・態度を統合し看護実践力を身につける。</p> <p>2 精神看護学実習における統合的な看護実践について、多様な課題を発見し、倫理観を踏まえて合理的かつ創造的に解決策をする力を養う。</p> <p>3 精神看護学実習における統合的な看護実践を目指して自ら学び、人々の安全と安楽を守り、健康の保持増進と生活の質向上に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>		
テキスト・参考書など	<p>専門分野 精神看護学①精神看護学概論／精神保健 第6版 メヂカルフレンド社 精神看護学②精神障害をもつ人の看護 第6版 メヂカルフレンド社 精神科看護技術の展開 中央法規 国民衛生の動向：厚生統計協会</p>		
実習項目	学 習 内 容・方法	備 考	
臨床講義	<p>1 病院・施設オリエンテーション／臨床講義</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害者が地域で暮らすための支援の実際や法律との関連 ・障害者社会復帰施設等の概要・特徴、精神保健福祉の実際の取り組みについて 	<p>事前に施設の特徴を調べる。</p> <p>地域移行支援マップにて地域移行支援の流れを確認する</p> <p>日替わりで実習を行う。</p> <p>1日交代で実習</p>	
施設実習	<p>2 実習前に施設オリエンテーションを受け、施設の概要・特徴・実習を行う上での留意点や方法や地域での生活を継続するための支援体制を知る。</p> <p>2日間：障害者就労支援施設にて利用者と共に活動に参加</p> <p>2日間：精神科デイケア（デイケア／デイナイトケア）にて利用者と共に活動に参加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域で生活する障害者とコミュニケーション 		
学内実習	<p>3 学内リフレクション（学びの整理）／学びのまとめ・発表</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プロセス検討会にて自己のコミュニケーションを洞察 ・各施設での学びを整理し発表する。 	<p>プロセスレコードを記入し、プロセス検討会を行う。</p> <p>学びの共有</p>	
評価の観点と趣旨		評価の方法	
<ul style="list-style-type: none"> ・精神看護領域における看護実践と理論を結び付けて理解し、関連する技術を身に付けている。 		<p>実習評価表に準ずる</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・精神看護領域における看護実践について多様な課題を発見している。 ・看護の職業倫理を踏まえて課題を探究し、合理的かつ創造的に解決しようとしている。 			
<ul style="list-style-type: none"> ・よりよい看護の実践を目指して自ら主体的に学んでいる。 ・人々の安全と安楽を守り、健康を維持増進するために主体的かつ協働的に取り組んでいる。 			

科目 臨地実習 看護の統合と 実践実習	担当講師 専攻科教諭	単位数 時間数 2 単位 70 時間	対象学年 2 年次
目 標	<p>1 既習の知識・技術・態度を統合し看護実践力を身につける。</p> <p>2 臨地実習における統合的な看護実践について、多様な課題を発見し、倫理観を踏まえて合理的かつ創造的に解決策をする力を養う。</p> <p>3 臨地における統合的な看護実践を目指して自ら学び、人々の安全と安楽を守り、健康の保持増進と生活の質向上に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>		
テキスト・ 参考書など	看護の統合と実践① 看護実践マネジメント／医療安全：メヂカルフレンド社 看護の統合と実践② 災害看護学：メヂカルフレンド社 看護の統合と実践③ 国際看護学：メヂカルフレンド社 別巻 看護管理／看護研究／看護制度：メヂカルフレンド社		
実習項目	学 習 内 容・方法		備 考
病院実習	<p>1 看護部長講話 病院組織と看護部組織について理解し、組織横断的な活動、安全管理や災害対策、国際看護について考える。</p> <p>2 病棟管理：病棟師長とリーダーに各1日ずつ同行実習 管理業務を通して、多重課題における優先順位の判断や対応、多職種との連携・協働と看護の役割を理解する。</p> <p>3 スタッフとしての看護活動・複数受け持ち 5日間 通常のスタッフ業務や夜間業務の一部など体験的な実習を通して、複数の受け持ち患者の看護や多重課題における優先順位の判断や対応、多職種との連携・協働と看護の役割・安全管理・医療安全を理解する。</p>		・感染管理チーム、NST チーム、安全管理チームなどの活動
評価の観点と趣旨			評価の方法
・臨地における統合的な看護実践について体験を通して体系的・系統的に理解し、関連する技術を身に付ける。			実習記録 事前学習 最終カンファレンス 自己評価 実習態度
・臨地における統合的な看護実践について多様な課題を発見できる。 ・看護の職業倫理を踏まえて課題を探求し、合理的かつ創造的に解決しようとしている。			
・臨地における統合的な看護実践について自ら学んでいる。 ・人々の安全と安楽を守り、健康の保持増進と生活の質向上に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。			